

つなぎ FARM

—これまでの主な取り組み—

環境配慮型農業実践塾の開催

無肥料・無農薬の自然栽培や肥料・農薬をできるだけ減らした栽培を町全体で実践するために環境配慮型農業実践塾(果樹・野菜)を開催。ここで学んだ栽培方法が普及しており、町のこだわりの農産物も少しずつできてきています。



地域ブランドイメージの確立

つなぎ型の安全・安心な農産物などのブランド確立のため、ブランドロゴ(つなぎ FARM)を活用した販売促進ツールを作成し、宣伝・販売を強化しています。



耕作放棄地活用による環境保全

耕作放棄地を解消しながら農村環境の保全を図り、小中学校と連携し農作物の収穫体験などを開催。農業の素晴らしさと大切さを伝えながら、津奈木町の豊かな自然環境を守っています。



「この土地で生まれる恵みを大切に、未来へつないでいきたい」
生産者の思いをつなぎ、

「つなぎFARM」は生まれました。
町と生産者、物産館が連携し、

肥料や農薬に頼らない「自然栽培」や「減肥料・減農薬栽培」に力を入れています。

農地を守り、環境を守り、愛情たっぷり育てた農産物を、子どもや孫、その先の未来へ。真心とともに、つないでいきます。

【特集】つなぎFARM

恵みを、つなぐ。

肥料や農薬に頼らない農業で津奈木の環境を守る

安全で安心な食べものを、みんなに食べてほしい。「つなぎFARM」を取り組むきっかけとなったのが、ここ津奈木町が水俣病の被害が大きかった地域であることが関係しています。さらに、担い手の高齢化による生産基盤の衰退傾向や耕作放棄地の増加を受け、「稼げる農業」を確立する必要もありました。その結果、たどり着いたのが「安全・安心」と「環境保全」という新たな価値を持った「次世代型の農業」。この取り組み

は平成25年から始まりました。

つなぎFARMでは、化学肥料や農薬だけでなく、魚粉や牛ふんなどの有機肥料も使わない自然栽培が最終目標。植物が本来持っている力を最大限発揮できるように、微生物と共存した土づくりから始めています。

しかし、これまで化学肥料や農薬を使ってきた農家に、いきなり無肥料・無農薬を提案しても受け入れられるはずがありません。そこで町は、講師を招いて実践的な栽培技術が学べる「環境配慮型農業実践塾」を定期的に開き、自然栽培をテーマに料理教室や講演会、映画の上映会を行っ

てきました。当時の町担当者が自ら米の自然栽培に取り組み、草取りの苦労や栽培技術などを体感。生産者と同じ目線に立って提案、指導してきた結果、少しずつではありますが、「つなぎFARM」の取り組みが広がっていききました。

着々と実り続けるつなぎFARMの農産物

大地のおいしさをそのままに、愛情込めて作るつなぎFARMの農産物は、生産者の愛が詰まった自然の恵み。一部の農産物は、小さなころから地元の食を知り、町への愛着を

深めるために町内の学校給食の食材として提供し、地域でつなぎFARMの魅力伝えていきます。

恵みをつなぐ生産者の物語

今月の特集は「次世代につなぎ農業」。なぜ自然栽培や有機栽培なのか、なぜ続けていくことができるのか。緑豊かな山々、青く透き通る海、やさしく香る風に育まれ、生産者みんなで力を合わせて作った愛情たっぷりの農産物。つなぎFARMに挑み続ける人たちの物語をお届けし、食と津奈木町の魅力に迫ります。